

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

第56回岡山県生協連通常総会を開催しました。

6月30日(火)オルガホールにて、県生協連第56回通総会を開催しました。出席状況は、代議員総数62名に対して、本人出席48名、書面出席13名、委任出席1名計62名の出席となりました。

三井生協藤原理事が司会となり、成立要件を満たしていることから、開会を宣言し、続いて議長に三井生協から長谷井代議員、倉敷医療生協から石井代議員が選出され、議事に入りました。総会運営委員として三井生協星川代議員、倉敷医療生協高羽代議員、理事会より大山理事が選任されました。

開会にあたり近藤会長から、被災地支援、最近の情勢や平和問題、地域社会づくりへの参加にふれて挨拶が行われました。



県生協連 近藤会長

【来賓挨拶】

岡山県県民生活部くらし安全安心課課長岡野千鶴さんから、伊原木知事のメッセージとして、生協では地域社会に根ざした活動を実践し、生活の安定と生活文化の向上に寄与していること、高齢者の消費者被害や若者のネット被害が広がる中、県として消費者教育推進計画を策定し進めていることなど挨拶が行われました。

岡山県労働者福祉協議会会長石田一さんから、たすけあい、お互い様の考え方が薄れてきており、その価値観をもつことが大切であることなどにふれて挨拶が行われました。

日本生協連中四国地連事務局長小林紀久子さんから、地域社会づくりへの参加、見守り協定が過半数の自治体での締結、介護保険事業の改定にともなう自治体との懇談、NTP再検討会議の取り組み、被災地支援にふれて挨拶が行われました。



くらし安全安心課 岡野課長



県労福協 石田会長



日本生協連中四国地連 小林事務局長

ごあいさつ

岡山県生活協同組合連合会
会長理事 近藤 清志

会員生協の皆さまには、日頃から県生協連へのご支援、活動への参加を賜り、お礼申し上げます。県生協連第56回通常総会が終了し、新しい体制で新年度の活動がスタート致しました。

私たちのくらしをめぐる、物価高や円安による食料品等の値上げが続き、それに対して収入が追いつかない状況が続いています。また、国会では平和の問題に直結する安全保障法制の法案が審議されています。地域に目をむけると少子高齢化の中、孤立する高齢者の存在とともに子どもも含めて、様々な被害や犯罪に巻き込まれるケースが発生しています。安心して暮らすことができる社会の実現にむけて、地域の中での見守りネットワークを築いていくことがますます重要になっています。行政や他団体と連携し、会員生協と協力して取り組みを進めていきたいと思っております。今年度もよろしくお願い致します。

3人の方から取り組みや活動報告が行われました。

近藤会長から一括して議案提案が行われ、途中 NPT 再検討会議に県生協連として参加したおかやまコープの森本理事から参加報告が行われました。

- 第 1 号議案 2014 年度事業報告書および決算関係書類承認の件
- 第 2 号議案 2015 年度事業計画および予算決定の件
- 第 3 号議案 役員選任の件
- 第 4 号議案 役員報酬決定の件



NPT 再検討会議の報告をする
おかやまコープ 森本温美さん

【発言】

岡山医療生協の住友富子さんから、ヘルスチャレンジの取り組みについて、他団体や行政への働きかけや市の広報誌への掲載、子ども、家族の参加をめざした取り組みとして進め、参加者を増やしたことについての報告。

おかやまコープの宮本紀子さんより、見守りや災害など新たに 11 自治体と協定を締結したこと、地域社会づくりへの参加ということを大きな柱として方針に持ち取り組みを進めていること、ハートフルネットの活動、お店を使っつての子育て広場の開催などについて報告。また、適格消費者団体になることによって、どのような意味があるのかの質問が出されました。



住友富子さん



亀山真一さん

倉敷医療生協 亀山真一さんから、過去の災害の教訓から、災害時に地域に役立つことができる病院めざして、新築移転の取り組み、そして地域での防災とともに地域包括ケアも含めて行政や地域の諸団体との連携についての報告。

討論のまとめを行った後、各議案について、採決を行い、全議案賛成多数で可決しました。



宮本紀子さん



新理事の井ノ上理事長と宮本理事

第 1 回理事会開催後に退任となる津山医療生協児島専務とおかやまコープ田中理事、新任理事として津山医療生協井ノ上理事長、おかやまコープ宮本理事の紹介が行われました。また、3 役について、現在の体制を継続し、会長に近藤理事、副会長におかやまコープ平田理事長、三井生協武部理事長、倉敷医療生協谷専務が選任されたことの報告が行われ、総会を終了しました。

選任された役員のみなさん

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長 理事	近藤 清志	おかやまコープ理事	理 事	宮本 紀子	おかやまコープ理事
副会長理事	平田 昌三	おかやまコープ理事長	理 事	藤原キヌ子	三井造船生協理事
副会長理事	武部 吉治	三井造船生協理事長	理 事	馬崎 健一	県労済生協専務理事
副会長理事	谷 謙一	倉敷医療生協専務理事	理 事	木村 高清	岡山医療生協理事長
理 事	和泉かよ子	倉敷医療生協理事	理 事	佐々木和宏	グリーンコープ生協おかやま専務理事
理 事	井ノ上義明	津山医療生協理事長	監 事	青井 昭洋	県労済生協総務部長
理 事	大山 健二	岡山大学生協専務理事	監 事	岡本 秀雄	おかやまコープ常勤監事
理 事	加藤 孝昭	県学校生協専務理事	監 事	河本志津恵	岡山医療生協 常任理事

この期に退任された役員は、お二人で、おかやまコープ田中敦子さん（2 期 4 年）は、生協連の取り組みで様々な役割を担って頂きました。津山医療生協児島和則専務（1 期 2 年）は、役割変更の関係で県連理事を降りられますが、津山医療生協の専務理事として、引き続き県生協連の活動を支援して頂きます。また、組織委員会への参加をして頂きます。お二人に感謝を申し上げます。

小さな一歩一歩が、平和な世界へ



NPT 再検討会議代表派遣報告

おかやまコープ 森本 温美



ニューヨークの街中に Cally Pear (和名 豆梨) の花がたくさん咲いていました。私は NPT 再検討会議代表派遣生協代表団の一員として、4/24 から 5/1 までの間、現地での様々な活動に参加してきました。ニューヨーク滞在中のいろいろなシーンの背景には、必ずこのふわふわと寄り添うように咲いた Cally Pear の白い花が一緒に、充実していたけれども結構ハードだった日々を、この花達がやさしく楽しませてくれました。

今回の生協代表団は、全国 41 生協から 91 名。現地で日本被団協代表団 48 名と合流しました。日本からニューヨークまで飛行機で片道 13 時間！肩も首もゴリゴリになりましたが、被団協の方々とお会いして、長旅の疲れもいっぺんに吹き飛びました。みなさん、平均年齢 80 歳です。懇親会では被爆者の方々の想いをたくさん聞いて、みんなで一緒に頑張ろう!! と気持ちをひとつにすることができました。

現地では、14 グループに分かれて活動をしました。学校などでの被爆証言活動のサポート、国連の各国代表部への要請活動、ピースパレードへの参加、といったことが私達生協団の主な活動内容でした。



▲外務省から発行された「非核特使」の委嘱状を持つ被団協のみなさん



▲組合員さんが作ってくださったピースグッズを持って、ピースパレードに GO!



ニューヨークに到着した次の日の朝の気温は、天気予報によるとカ氏 40 度。???, 日本より寒いのですが、「カ氏」で言われてもピンときません。多分日本の 5~6℃くらいだったと思います。日中はカ氏 60 度になるとのこと。そう言われても? 薄手の服しか持って行っていなかったことを後悔しましたが、滞在中に気温はぐんぐん上がり、ピースパレードの日は暑かったほどです。



▲いろいろな横断幕で平和への想いをアピール。おかやまコープのメンバーはエフコープの方達と行動を共にしました。

今回のピースパレードの参加者は公式発表によると 8,000 人。あちらではテレビのニュースや新聞にも取り上げられず、がっかりしました。国連本部のあるニューヨークでは、このくらいの規模のデモ行進などはよくあることだからなのだそうです。沿道の人たちの反応や参加した人たちの 8 割が日本人だった、ということを見ると、核兵器に対する世界の関心は日本人が期待するほど高くないのだな、ということをもっと感じてしまいました。こういう現実も日本に帰ってしっかり報告しなければ、と思いました。

国連本部の原爆展前での被爆者の方達の証言活動には、たくさんの方々が立ち寄ってくださいました。私達がいたときには日本人の姿のほうが多く、もっと外国の方にもお話を聞いてもらいたいなと思っていましたが、別のグループの時間帯では、外国の方も熱心にお話を聞いてくださったとのこと。それぞれのグループが自分達の持ち場で、それぞれに頑張っているのだな、と頼もしく感じました。被爆者の方の話聞いて泣いている方、原爆展の写真を見てショックを受けている外国の方・・・、直接その場に足を運んだからこそ感じられる特別なものがあつたようです。



▼ GRACE CHURCH SCHOOL にて



わかるように、ゆっくりやさしくお話をされてました。終わった後に記念撮影。みんなでピース！いい笑顔でしょ♪

どちらの学校も先生や保護者の方が大変ご尽力くださいました。子ども達にとっては少し難しい話だったかもしれませんが、この日子ども達の心の中に蒔かれた平和の種は、いつか自分にとってとても大切なものができたときに力強く芽を出して、大きく育っていつてくれることと、私は信じています。

GRACE CHURCH SCHOOL の証言活動では、高校生から鋭い質問も出ました。「日本での原爆の理解度は？世論は？」この質問の答えを私なりに考えてみましたが、今の日本、唯一の被爆国として胸を張って答えられる答えがあるのかと、少し恥ずかしくなりました。

国連国際学校では、小学生達が一生懸命耳を傾けてくれました。証言者の土屋さんも藤田さんも小さい子ども達にわかるように、ゆっくりやさしくお話をされてました。終わった後に記念撮影。

▼国際国連学校にて



核兵器廃絶の取り組みに熱心な国であるアイルランドの政府代表部の方とお会いし、被爆者の方とともに、核兵器廃絶に向けた取り組み推進とNPT再検討会議での積極的な役割発揮を訴える要請文書を手渡すことができました。アイルランド大使が「これからは核兵器の非人道的な側面を見つめることが重要なことであり、そのためには被爆者の体験談から核兵器のリスクを世界中の人に知ってもらう必要があります。」とおっしゃいました。被爆者の方にとっても私達にとっても大きな励みになる言葉でした。

今回の**NPT再検討会議**は最終文書の合意にいたらず決裂して閉幕しました。大変残念なことではありますが、大きく前進したこともあります。それは、核兵器の非人道性が正面から取り上げられ、核兵器の法的規制が必要であるという認識が世界に広がったことです。オーストリアの呼びかけた核兵器禁止への「誓約」文書には107カ国もの国々が賛同しました。核の傘の下にいる国々も（日本もです）、今すぐには賛同できないけれど、最終的には核兵器禁止の法的枠組み作りが必要だと言いはじめました。次はここからのスタートです。ゴールに到着するのはなかなか大変ですが、あきらめずに、より平和な世界へ向かっての歩みを止めないことが大切だと思いました。



▲アイルランド大使にもピースグッズをプレゼント

核兵器は大変な破壊力を持つ兵器ですが、それが奪うものとは、親子が一緒にいる幸せ、友達と過ごす幸せ、将来を夢見る幸せ・・・、そういった、多くの人々の日常の、何げないささやかな幸せです。被爆者の方達は、それを失うことがどれほど辛くて悲しくて苦しいものなのか、ご自分の体験をもって私達に教えてくださっています。一人ひとりのささやかな幸せを守るために、一人ひとりが自分の平和の一步を踏み出すこと、みんなの小さな一步一步が、平和な世界へ向かっての大きな前進になるのだと思います。

被爆者の方々の思いを引き継いで、さあ、みなさん、一緒に前へ進みましょう。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

消費者ネットおかやま第8回通常総代会が開催されました。

2015年6月6日(土)岡山県立図書館多目的ホールにて、第8回通常総代会が開催されました。

出席状況 実出席 33 書面出席 30 委任出席 14 合計 77名 定数 115名 (オブザーバー 5名)

丹治泰弘理事が司会となり、開会時の出席状況を報告し定款に基づき成立していることの開会宣言が行われました。議長に高原佐知司法書士が選任され議事に入りました。

最初に消費者ネットおかやま河田英正理事長から、2007年6月6日に設立され8年が経過したこと。適格消費者団体とは、消費者を代表して悪徳商法など差止め請求できる権限をもつもので大きな力となること。この1年充実した活動が出来ており、今年も適格消費者団体になるように、秋には認定をめざす団体から適格消費者団体へ、大きな飛躍の年になるように進めていくことの挨拶が行われました。



岡山県県民生活部くらし安全安心課課長岡野千鶴さんより、消費者行政推進への協力や消費者被害撲滅にむけた活動への参加、サポーター講座では2,000名以上の受講者となっていること、5月消費者月間での啓発活動への参加などのお礼があり、高齢者を狙った特殊詐欺は、今年2倍で推移している。自立した消費者として、学校教育の充実など進めている。安全安心が前提となり、県も消費者団体と連携しながら進めていくこと、適格消費者団体認定にむけあと一歩のところまでできており、引き続き県としても支援していくことにふれて挨拶が行われました。



くらし安全安心課 岡野課長

河端事務局長から各議案、報告事項について一括して提案されました。

小田監事より監査報告が行われ、昨年の指摘事項に関して、会計処理ソフトを導入

し効率的な事務をされていること、適格の認定条件として事務所の独立性が加わったこと、会計処理等適切に行われていることの説明がありました。討論では、岡会員と加百会員から発言がありました。その後採決が行われ、全議案賛成多数で採択されました。総会終了後第1回理事会を開催し、理事長に河田英正さん、副理事長に兒島隆朗さん・大橋まり子さん、事務局長に河端武史さんが選出されました。



消費者月間講演会を開催

「食の安全安心を考える」

6月6日(土)岡山県立図書館2階多目的ホールにて、84名の参加で消費者月間講演会を開催しました。主催は、消費者ネットおかやまと岡山県消団連の共催で岡山県から後援を受け実施しました。県消団連代表幹事近藤幸夫弁護士より、挨拶が行われ、岡山県消費生活センター田中照之所長より、「県内健康食品等相談事例、被害について」



報告頂きました。榎尾幸子先生から「あふれる健康食品、サプリメントの実態と私たちの食生活」をテーマに講演をして頂きました。新しい食品表示制度がこの4月1日から施行



され、消費者にとって分かりやすく、表示されるものとなっている。また、加工食品の栄養成分表示が義務化され、栄養成分表示を活用して健康的な食事の摂取に役立ていくように説明されました。あらたな機能性表示制度が創設され、事業者責任で届出制により行われるもので、この間受け付けられたもので、安全性の問題で許可されなかったにも係らず、機能性表示食品として受付られている事例など問題もあることの説明がありました。

「健康食品」の虚偽誇大な広告の例や問題となった広告表現・表示例など具体的な内容について、説明され、選択・利用時において留意すべき事項として、「バランスのとれた食生活を行えていますか。本当に必要ですか。商品の品質等に問題はありますか。」と考えることや利用時・利用中の注意事項について話されました。

食事の基本は、和食で主食・主菜・副菜をそろえ、だしを上手く使ってうすあじに、そして不足するカルシウムは牛乳でとることを進められました。参加者からは「わかりやすく科学的検知に基づいてのお話は、サプリメント依存の人が多く昨今、気をつけておかなければならないことがよく理解できました。「本当にそれは必要」常に冷静に考えてみるのが大切なのです。」など良かった感想が多数寄せられました。



声なき在宅被災者の苦しみ

床も天井もぼろぼろ、畳は腐り、壁の隙間から風が吹き込む。4年を経たいまも、津波で壊れた家に我慢して住み続ける人たちがいます。「在宅被災者」と呼ばれていますが、復興庁発表の「避難者」にはカウントされず、生活実態もほとんど知られていません。

在宅被災者の支援団体「チーム王冠」の代表・伊藤健哉さんは、石巻エリアだけで約12,000世帯の在宅被災者がいると推定しています。

避難所に入れなかった、応急仮設住宅で体調を崩して自宅に戻ったなど在宅を選ばざるを得なかった理由は百人百様ですが、共通しているのは応急仮設住宅で避難生活をしている方に比べ、支援がきわめて薄いことです。

「お金はない。食料や生活物資の提供もない。家財道具は津波で持っていかれた。義援金が入るのは半年後。生活が苦しい上に、52万円の応急修理制度では水回りを直すだけで精いっぱいです」

チーム王冠が昨年石巻エリアで「家屋修繕状況調査」を実施したところ「経済的理由で修理ができずにいる、あるいは必要最低限の修理だけできらめいている、現状が明らかになりました。自治体等の支援制度を合わせれば約250万円(※)まで利用できるのですが、大規模半壊や全壊の家を修繕するには約1,000万円必要と言われており、経済的に余裕のない世帯や年金生活の高齢者にとっては到底無理な話でした。

2014年、災害対策基本法が改正され、在宅被災者支援が盛り込まれました。しかしそれは今後の災害に向けてのもの。「東日本大震災の在宅被災者は、町内会も無くなり、高齢化も進んで心身の不安も抱えているのに、いまだに放置されたままなんです」。



▲ 2014年秋に撮影した在宅被災者の住まい。寝る場所は確保できているが風呂や天井などは修理できていない。

伊藤さんは「このままだと東日本大震災の在宅被災者は無かったことにされてしまうのではないかと不安を抱えています。

「在宅被災者の問題を何とかしないといけないという声全国からあがれば、国も動かざるを得ません」。そのためにも壊れた家に住み続けている人たちがいることを忘れないでほしい。その生活の大変さを理解してほしい、そう伊藤さんは訴えます。

(写真提供：東日本大震災一般社団法人チーム王冠 <http://team-ohkan.net/>)

※ 被災者支援法による加算支援金、住宅再建支援事業など(自治体によって違いあり)。

岡山市原爆被爆者会から、70周年を記念して感謝状と記念品を頂きました。

6月に岡山市被爆者会平末会長と3名の方が県生協連事務所に来られ、70周年を記念して、感謝状と記念品を頂きました。

また、8月5日から、リットシティビルにて原爆平和展が開催されること、被爆体験記の発行についての普及を進めることの協力の依頼がありました。

